



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. **39**

2021.5.1

信州 ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：山ノ内南と西小学校でESD研修／附属長野中学校のSDGs／ESD国内実施計画案

## 4月21日 山ノ内町の南小学校と西小学校でESD研修をおこないました

両校をZoomでつなぎ、水谷が「ユネスコスクールとは」を解説しました。ユネスコの理念のもとに世界規模で展開している学校のネットワークであり、世界で1万校以上、参加校数では日本が最大という説明に、「え、そうなんだ!」という声があがった。具体的にはESDを実践する拠点校であり、日本では学習指導要領に「持続可能な社会のための教育」が明記されたことでESDは教育全体の大きな目標にもなりました。しかし、日本のユネスコスクールには他校との連携や独自のカリキュラムが少ない、国際的な視点が弱いなど今後の改善点も指摘されました。ESDと現在話題となっているSDGsとの関係や、ESDカレンダー、評価などキーになる言葉も簡潔に説明され、ESDに取り組んでこられた方々の再確認になりました。解説のあとは、各校で「教科との連携を考えてESDカレンダーを見直す」をテーマにワークショップがおこなわれました。西小学校では、3年の「ひつじのゆきといっしょに」と5年の「私たちの米作り」をテーマに各班で意見交換しました。年間単元配列表が用意されていたので、テーマに関連しそうな各教科の単元を見つけ出しては誰々さんに頼めば、など具体的な提案もだされました。また、水の課題では、中野の学校では八ヶ郷について学習したけど山ノ内ではないなど、多彩な意見がだされ、こんなふうな年間計画を組みなおせばよいのかと大いに参考になったようです。最後に、エコパーク＝地域の山との関連も見いだせれば地域社会との関連においてESDにより一層近づけるのではと注釈させていただきました。(水谷瑞樹・渡辺隆一)

## 4月23日 附属長野中学校のSDGs活動が信毎に紹介されました

ユネスコスクールでもある信州大学附属長野中の学友会がコロナ下の生徒の行動目標をSDGsにならって作成しFCGsとして活動始めたことが紹介されました。総合学習でのSDGsの学びを学校生活に応用し、実践することは持続可能な社会作りの一歩でもありますね。



## 4月23日 第2期ESD国内実施計画案の説明会が開催されました

国のESD推進計画案に対するパブリックコメントが発表され、その説明会がZoomでおこなわれました。ESDは様々な分野に関係することから国の11省庁にわたる計画であり、その主担当の文科省と環境省から計画案の解説があった。第2期の特徴はSDGsに対応した2030年をみすえて設定されており、2015年に設定されたGAPの推進と国全体として取り組むとされ、以下の4項目が目標となっている。①SDGsに貢献すること、②パートナーシップで推進すること、③学習の変革、教師の能力向上、④先進事例の活用、があげられた。文科省からも学習の変革について、教科書の学習から地域に根ざした学習への転換、変革が求められるとの解説が印象的であった。具体的には教員研修やユネスコスクールの国際交流、学校間のネットワークの構築などがあげられた。最後に、主催したESD支援全国センターより、これまでの個人的な努力によるESDから機関型対応による組織的なESDの推進が求められており、そのためにも全国センターのHPなどを活用して欲しいとのコメントがあった。本案のパブリックコメントの募集は既に締め切られているが、様々な意見は信州ESDコンソーシアムにも随時お寄せください。

SDGs  
ニュース

当コンソーシアムもユネスコエコパークを活用したESDに取り組んできましたが、日本自然保護協会の会報581号に「ユネスコエコパークがSDGsの実現を推進」の記事を掲載し、日本の10か所のエコパークの歴史やその意義を解説しています。10のエコパークのうち長野県には3つがあり、豊かな自然とその教育・文化的活用＝ESDの推進が大いに期待されています



## 信州ESD通信

No.39 2021.5.1

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一

〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部

事務局：清水 TEL026-238-4034 kyoesd@shinshu-u.ac.jp